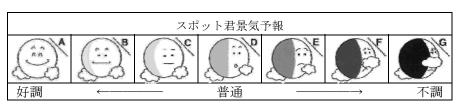
2. 目黒区内中小企業の景況(平成26年1~3月期)

(1) 今期の特徴点



製 造 業



製造業の主要指標をみると、業況は△21.8 で前期比 5.4 ポイント減とやや悪化した。売上額は△18.6 で 5.2 ポイント減、受注残は△16.7 で 5.2 ポイント減といずれもわずかに悪化した。収益は△20.0 で 5.5 ポイント減と大きく悪化した。来期の見通しについては、売上額、受注残、収益ともに今期並で推移すると予想されており、業況も今期並となる見込み。

価格動向については、販売価格は△2.9 で 4.0 ポイント増とやや下降幅が縮小、原材料価格は 9.6 で 9.2 ポイント減と大幅に上昇傾向が弱まった。在庫は 1.8 ポイント減の 0.3 となり、ほぼ適正水準となった。 来期の見通しについては、販売価格は今期並の下降が続くものの、原材料価格はわずかに上昇傾向が強まり、 在庫はやや過剰感が強まる見込み。

資金繰りは \triangle 18.7 で 1.4 ポイント減と前期並の厳しさが続いた。借入難易度は \triangle 9.5 で前期並となり、借入をした企業は 13.1%で 5.7 ポイント減少した。設備投資動向については、設備投資を実施した企業は 8.2%で前期並の実施となった。来期の見通しについては、資金繰りは \triangle 18.5 と今期並となり、借入をする企業は 11.1%で 2.0 ポイント減少し、設備投資を実施する企業は 8.3%で今期並の実施となる見込み。

経営上の問題点は、1位は「同業者間の競争の激化」で52.0%となった。次いで2位は「売上の停滞・減少」で48.0%、3位は「利幅の縮小」で26.0%となった。

重点経営施策では、1位は「販路を広げる」で63.0%となった。2位は「経費を節減する」で61.0%、3位は「情報力を強化する」で18.0%となった。

卸 売 業



卸売業の主要指標をみると、業況は3.3 ポイント増の0.6 となり、過去2年間で初めてプラスに転じた。 売上額は7.2 で3.8 ポイント増と幾分改善し、収益は△3.6 で3.0 ポイント増とやや改善した。来期の見 通しについては、売上額、収益ともに悪化し、業況はかなり悪化する見込み。

価格動向については、販売価格は 14.0 で 23.5 ポイント増と 3 期ぶりに上昇に転じ、仕入価格は 26.3 で 17.7 ポイント増と大きく上昇幅が拡大した。在庫は 1.0 で 2.2 ポイント減少した。来期の見通しについては、販売価格は幾分上昇幅が縮小、仕入価格はやや上昇傾向を強め、在庫は過剰から品薄に転じる見込み。

資金繰りは△17.0 で 6.9 ポイント減と大幅に悪化した。借入難易度は 12.0 で前期と同水準となり、借入をした企業は 21.4%で 4.5 ポイント減少した。設備投資動向については、設備投資を実施した企業は 3.8%で前期並となった。来期の見通しについては、資金繰りは△15.3 とやや改善し、借入をする企業は 21.4%と今期と同水準の見込み。設備投資をする企業については 11.5%とかなり増加する見込み。

経営上の問題点は、1位は「同業者間の競争の激化」で53.6%となった。次いで2位は「売上の停滞・減少」で46.4%、3位は「利幅の縮小」で35.7%となった。

重点経営施策では、1位は「販路を広げる」で64.3%となった。次いで2位は「経費を節減する」で57.1%、3位は「情報力を強化する」で35.7%となった。

小 売 業



小売業の主要指標をみると、今期の業況は△23.7 で 2.9 ポイント減とやや悪化した。売上額は△16.4 で 3.3 ポイント減、収益は△13.2 で 1.9 ポイント減と、いずれもわずかに悪化した。来期の見通しについては、売上額がやや悪化、収益が大きく悪化し、業況はやや悪化する見込み。

価格動向については、販売価格は△4.4 で 3.3 ポイント減とやや下降幅が拡大した。仕入価格は 7.7 で 1.8 ポイント増とやや上昇幅が拡大した。在庫は 5.5 で 4.0 ポイント増とわずかに過剰感が強まった。来期の見通しについては、販売価格は 3.5 と 6 期ぶりにプラスに転じ、仕入価格は 20.1 と大幅に上昇傾向を強め、在庫は 7.5 でやや過剰感が強まる見込み。

資金繰りは△22.4 で 5.0 ポイント減と厳しさが幾分増した。借入難易度は△11.9 で前期の 2.2 から大きく厳しさが強まり、借入をした企業は 3.7%で 10.1 ポイント減少した。設備動向については、設備投資をした企業は 7.8%でやや増加した。来期の見通しについては、資金繰りは△24.7 とやや悪化、借入をする企業は 5.7%と若干増加し、設備投資をする企業は 8.2%と今期並で推移する見込み。

経営上の問題点については、1位は「売上の停滞・減少」で60.0%となった。次いで2位は「同業者間の競争の激化」で41.8%、3位は「大型店との競争の激化」で38.2%となった。

重点経営施策では、1位は「品揃えを改善する」で52.7%となった。2位は「経費を節減する」で50.9%、3位は「宣伝・広告を強化する」で36.4%となった。

サービス業



サービス業の主要指標をみると、今期の業況は△6.8 で 1.7 ポイント増とやや改善した。売上額は 5.5 ポイント増の 2.9 となり、過去 2 年間で初めてプラスに転じた。収益は 1.4 ポイント増の△4.1 と前期並で推移した。来期の見通しについては、売上額、収益ともに大きく悪化し、業況はやや悪化が強まる見込み。

価格動向については、料金価格は 5.8 ポイント増の 1.4 となり、過去 2 年間で初めてプラスに転じた。 材料価格は 12.0 で 2.6 ポイント減とやや上昇幅が縮小した。来期の見通しについては、料金価格は 3.3 でわずかに上昇傾向が強まるものの、材料価格は 20.3 と上昇幅が拡大する見込み。

資金繰りは、△10.5 で 2.0 ポイント増とやや厳しさが和らいだ。借入難易度は△4.1 で 2.0 ポイント減とやや窮屈感が強まった。借入をした企業は 10.0%で 5.0 ポイント減少した。設備投資動向については、設備投資をした企業は 8.5%でやや減少した。来期の見通しについては、資金繰りはやや悪化、借入をする企業は今期並で推移し、設備投資をする企業はやや増加する見込み。

経営上の問題点は、1位は「同業者間の競争の激化」で53.3%、2位は「売上の停滞・減少」で45.0%、3位は「材料価格の上昇」で15.0%となった。

重点経営施策では、1 位は「経費を節減する」で 60.0%、2 位は「販路を広げる」で 40.0%、3 位は「宣伝・広告を強化する」で 26.7%となった。

建設業



建設業の主要指標をみると、業況は 8.5 で 6.9 ポイント増と大きく改善した。売上額は 24.3 で 14.2 ポイント増と強含みで推移し、収益は 8.8 で 8.2 ポイント増と大幅に改善した。施工高は 20.0 で 12.4 ポイント増、受注残は 25.3 で 8.5 ポイント増といずれも大きく改善した。来期の見通しについては、売上額、受注残、施工高、収益のいずれも大幅に悪化し、業況もかなり悪化する見込み。

価格動向については、請負価格は 14.2 ポイント増の 3.3 と 2 期ぶりに上昇に転じ、材料価格は 5.6 ポイント減の 21.6 とかなり上昇幅が縮小した。在庫については Δ1.4 で 1.8 ポイント減と過剰から品薄へと転じた。来期の見通しについては、請負価格が下降に転じる一方、材料価格は上昇幅が拡大する見込み。

資金繰りは、△13.1 で 2.4 ポイント減とやや厳しさが増した。借入難易度は△2.4 と前期の 0.0 からわずかに悪化し、借入をした企業は 25.6%で 3.3 ポイント減少した。設備投資動向については、設備投資を実施した企業は 7.1%で 1.6 ポイント減少した。来期の見通しについては、資金繰りは△13.3 とほぼ今期並で推移し、借入をする企業は 20.9% と幾分減少するとみられる。設備投資を実施する企業は 7.1%と今期と同水準となる見込み。

経営上の問題点は、1位は「同業者間の競争の激化」で67.4%となった。次いで2位は「売上の停滞・減少」で34.9%、3位は「利幅の縮小」で27.9%となった。

重点経営施策は、1位は「販路を広げる」で65.1%、2位は「経費を節減する」で62.8%、3位は「情報力を強化する」で27.9%となった。

各業種別業況の動き(実績)と来期の予測

